

#### D. 考察

疫学調査から推測される認知症患者の数に比べると、精神科医が介入している患者数はかなり少ないと考えられる。認知症への対応は十分行われていない可能性が高い。

#### E. 結論

都市型のがんセンターにおいては認知症への対応が十分でない可能性が高く、今後ケアを適切に導入するための方略の必要性が示唆された。

#### F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

1. Asai M, Shimizu K, et al: Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients. *Psycho oncology*. 22(5):995-1001, 2013
2. Shimizu K: Effects of Integrated Psychosocial Care for Distress in Cancer Patients. *Jpn J Clin Oncol*. 43(5): 451-457, 2013
3. 清水 研: ナショナルセンターとしてのあり方. *総合病院精神医学*, 25(2):151-155, 2013

##### 2. 学会発表

1. 清水 研: がん患者に合併する抑うつに関する最新の知見と臨床の実際, 第19回日本行動医学会学術総会, 2013/3/8, 東京
2. 清水 研: 精神腫瘍医の自身の経験を振り返って, 第109回日本精神神経学会学術総会, 2013/5/22, 福岡
3. 清水 研: 「Clinical bio-psycho-social risk factors for depression in lung cancer patients : a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project」, 韓国心身医学会, 2013/6/7, 韓国
4. 清水 研: うつ状態の早期発見、早期治療への取り組み, 第10回日本うつ病学会総会, 2013/7/19, 福岡
5. 清水 研: 精神腫瘍医が担っていく役割 (精神症状のスクリーニングについて), 第26回日本サイコオンコロジー学会総会, 2013/9/21, 大阪
6. Shimizu K: Personality traits and

coping styles explain anxiety in lung cancer patients to a greater extent than other factors,

15th. IPOS, 2013/11/6, ロッテルダム (オランダ)

7. 清水 研: 精神科医がサイコオンコロジーを始めるときの苦勞, 第26回日本総合病院精神医学学会総会, 2013/11/29, 京都

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。

厚生労働科学研究費補助金（認知症対策総合事業）  
分担研究報告書

認知症患者における緩和医療に関する研究

研究分担者 木澤義之 神戸大学大学院 医学研究科内科系講座先端緩和医療学分野

研究要旨 高齢化が進む中、認知症を併存したがん患者が増加している。認知症患者が持つ、認知機能の低下、周辺症状などのため、患者・家族が望んだ場所で療養生活を送ることが難しい状況にある。今回われわれは、わが国における認知症を併存したがん患者のエンド・オブ・ライフ・ケアを明らかにするための一つの基礎資料として、認知症合併がん患者の緩和ケア病棟の受け入れ状況について調査を計画した。

A. 研究目的

高齢化が進む中、認知症を併存したがん患者が増加している。認知症患者が持つ、認知機能の低下、周辺症状などのため、患者・家族が望んだ場所で療養生活を送ることが難しい状況にある。今回われわれは、わが国における認知症を併存したがん患者のエンド・オブ・ライフ・ケアを明らかにするための一つの基礎資料として、認知症合併がん患者の緩和ケア病棟の受け入れ状況について調査を平成 25 年度がん臨床研究事業「緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究」班と共同して計画した。本研究の目的は、わが国の緩和ケア病棟のうち、認知症患者、意思決定能力のない患者が入院可能な病院がどの程度あるかを明らかにすることである。

B. 研究方法

【対象】2013年7月時点で日本ホスピス緩和ケア協会に加盟する緩和ケア病棟 251 か所の責任医師

【方法】郵送法。未返送者に対し督促を初回送付から4週間後に行った。アンケート項目はホスピス・緩和ケア病棟の入院に関することであり、認知症併存患者に関する質問は以下の5つであった。それぞれ、以下の患者の入院が可能な程度を4件法（可能である一状態・事情によるが原則可能である一状態・事情によるが原則不可能である一不可能である）で尋ねた。

- ・自分で身の回りのことができないなどの中程度以上の認知症
  - ・認知症があり、幻覚・妄想・興奮・徘徊など認知症の周辺症状(BPSD)を認める
  - ・過活動型のせん妄がある(認知症を除く)
  - ・活動性の低下など低活動性のせん妄がある
  - ・意思決定能力がない
- 質問項目は専門家討議により決定した。

(倫理面への配慮)

調査は連結可能匿名調査とし、疫学研究的指針に沿って計画し、神戸大学大学院医学研究科の倫理委員会から承認を得たうえで実施した。

C. 研究結果

2014年2月7日時点で155施設(62%)が回答した。以下の状態の患者の入院が可能である、もしくは状態・事情によるが原則可能である、と回答した施設は以下の割合であった。

- 1) 自分で身の回りのことができないなどの中程度以上の認知症(92.2%)
- 2) 認知症があり、幻覚・妄想・興奮・徘徊など認知症の周辺症状(BPSD)を認める(72.8%)
- 3) 過活動型のせん妄がある(認知症を除く)(87.7%)
- 4) 活動性の低下など低活動性のせん妄がある(98%)
- 5) 意思決定能力がない(92.2%)

#### D. 考察

認知症合併がん患者の大多数は、そのエンド・オブ・ライフにおいて、緩和ケア病棟に入院が可能であることが明らかとなった。その一方で、BPSDを認める患者においては約4分の1の施設で入院が難しいことが明らかとなり、緩和ケア病棟に対する教育啓発活動、並びに精神症状のマネジメント技術の向上などが、その受入れの改善に有用な可能性が示唆された。

#### E. 結論

認知症合併がん患者の大多数は、そのエンド・オブ・ライフにおいて、緩和ケア病棟に入院が可能であることが明らかとなった。一方で、BPSDを認める患者においては約4分の1の施設で入院が難しいことが明らかとなった。

#### F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

#### G. 研究発表

##### 論文発表

1. Nakazawa K, Kizawa Y, Maeno T, Takayashiki A, Abe Y, Hamano J, Maeno T. Palliative Care Physicians' Practices and Attitudes Regarding Advance Care Planning in Palliative Care Units in Japan: A Nationwide Survey. *Am J Hosp Palliat Care*. 2013. [Epub ahead of print]
2. Ise Y, Morita T, Katayama S, Kizawa Y. The Activity of Palliative Care Team Pharmacists in Designated Cancer Hospitals: A Nationwide Survey in Japan. *J Pain Symptom Manage*. 2013. [Epub ahead of print]
3. Kizawa Y, Morita T, Hamano J, Nagaoka H, Miyashita M, Tsuneto S. Specialized palliative care services in Japan: a nationwide survey of resources and utilization by patients with cancer. *Am J Hosp Palliat Care*. 2013 Sep;30(6):552-5.
4. Maeda I, Tsuneto S, Miyashita M, Morita T, Umeda M, Motoyama M, Kosako F, Hama Y, Kizawa Y, Sasahara T, Eguchi K. Progressive Development and Enhancement of Palliative Care Services in Japan: Nationwide Surveys of Designated Cancer Care Hospitals for Three Consecutive Years. *J Pain Symptom Manage*. 2014 Jan 16. [Epub ahead of print]
5. Nakazawa Y, Kizawa Y, Hashizume T, Morita T, Sasahara T, Miyashita M. One-year Follow-up of an Educational Intervention for Palliative Care Consultation Teams. *Jpn J Clin Oncol*. 2013 Dec 4. [Epub ahead of print]
6. Akechi T, Okuyama T, Uchida M, Sugano K, Kubota Y, Ito Y, Sakamoto N, Kizawa Y. Assessing medical decision making capacity among cancer patients: Preliminary clinical experience of using a competency assessment instrument. *Palliat Support Care*. 2013 Oct 21:1-5.
7. Yamamoto R, Kizawa Y, Nakazawa Y, Morita T. The palliative care knowledge questionnaire for PEACE: reliability and validity of an instrument to measure palliative care knowledge among physicians. *J Palliat Med*. 2013 Nov;16(11):1423-8.
8. Hamano J, Kizawa Y, Maeno T, Nagaoka H, Shima Y, Maeno T. Prospective Clarification of the Utility of the Palliative Prognostic Index for Patients With Advanced Cancer in the Home Care Setting. *Am J Hosp Palliat Care*. 2013 Sep 16. [Epub ahead of print]
9. Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Akiyama M, Akizuki N, Hirai K, Imura C, Kato M, Kizawa Y, Shirahige Y, Yamaguchi T, Eguchi K. Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study. *Lancet Oncol*. 2013 Jun;14(7):638-46.
10. Morita T, Kizawa Y. Palliative care in Japan: a review focusing on care

delivery system. Curr Opin Support Palliat Care. 2013 Jun;7(2):207-15.

11. Iwamitsu Y, Oba A, Hirai K, Asai M, Murakami N, Matsubara M, Kizawa Y. Troubles and hardships faced by psychologists in cancer care. Jpn J Clin Oncol. 2013 Mar;43(3):286-93.
12. Hamano J, Maeno T, Kizawa Y, Shima Y, Maeno T. Usefulness of Palliative Prognostic Index for patient with advanced cancer in home care setting. Am J Hosp Palliat Care. 2013 May;30(3):264-7.

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
特記すべきことなし。

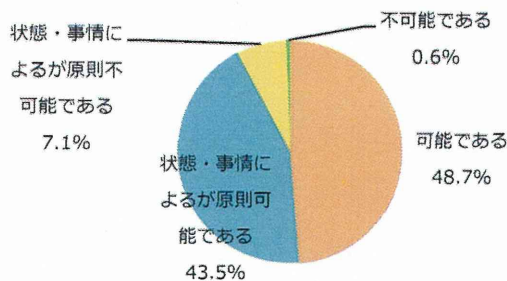
ホスピス・緩和ケア病棟の入院・入棟に関するアンケート

認知症に関する事項

回答数

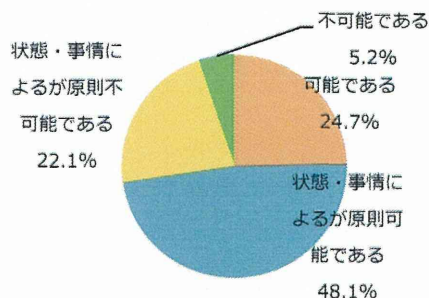
155

10. 自分で身の回りのことができないなどの中程度以上の認知症



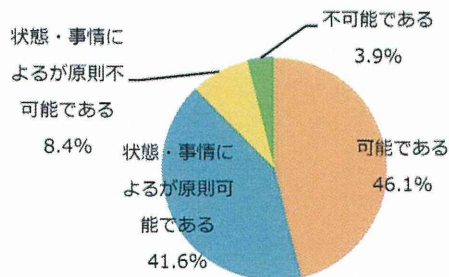
1	可能である
2	状態・事情によるが原則可能である
3	状態・事情によるが原則不可能である
4	不可能である
合計	
未回答	

11. 認知症があり、幻覚・妄想・興奮・徘徊など認知症の周辺症状(BPSD)を認める



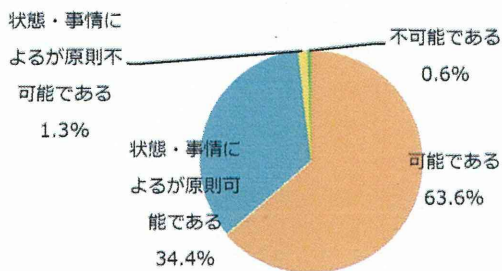
1	可能である
2	状態・事情によるが原則可能である
3	状態・事情によるが原則不可能である
4	不可能である
合計	
未回答	

12. 過活動型のせん妄がある(認知症を除く)



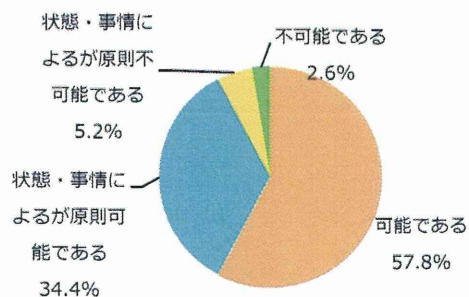
1	可能である
2	状態・事情によるが原則可能である
3	状態・事情によるが原則不可能である
4	不可能である
合計	
未回答	

13. 活動性の低下など低活動性のせん妄がある



1	可能である
2	状態・事情によるが原則可能である
3	状態・事情によるが原則不可能である
4	不可能である
合計	
未回答	

14. 意思決定能力がない



1	可能である
2	状態・事情によるが原則可能である
3	状態・事情によるが原則不可能である
4	不可能である
合計	
未回答	

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍（外国語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Mariko Kaneko, et al	Mental Care for Anger	Maurice G. Penrod and Scott N. Paulk	Psychology of Anger: New Research	Nova Science Publishers, Inc	New York	2013	151-159

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
小川朝生	癌患者の心理的反応・サイコオンコロジー	小川修、岡田裕作、荒井陽一、寺地敏郎、松田公志、笈善行、羽瀨友則	ベッドサイド泌尿器科学改定第4版	南江堂	東京	2013	617-20
小川朝生	意識障害（せん妄）	日本緩和医療薬学会	緩和医療薬学	南江堂	東京	2013	80-1
小川朝生	がん領域における抑うつとの現状と対応	村松公美子、伊藤弘人	身体疾患患者 精神的支援ストラテジー	NOVA 出版	東京	2013	23-7
小川朝生	入院患者の不眠に注意	小川修、谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步	羊土社	東京	2013	27-32
小川朝生	せん妄を発症する疑いがある場合	小川修、谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步	羊土社	東京	2013	156-7
小川朝生	せん妄になってしまった場合	小川修、谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步	羊土社	東京	2013	158-60
明智龍男	がん患者の抑うつの評価と治療.		NAGOYA MEDICAL JOURNAL		名古屋	2013	51-55
明智龍男	一般身体疾患による気分障害	山口徹, 北原光夫, 福井次矢(編)	今日の治療指針	医学書院	東京	2013	868
明智龍男	精神症状マネジメント概論	日本緩和医療薬学会(編)	緩和医療薬学	南江堂	東京	2013	79
井上真一郎	色々な不眠への対処～こんなときどうする？薬剤に依存的な場合	小川朝生、谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步	羊土社	東京	2013	161-163
井上真一郎	色々な不眠への対処～こんなときどうする？過量服用の既往がある場合	小川朝生、谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步	羊土社	東京	2013	164-165

井上真一郎	色々な不眠への対処～ こんなときどうする？ 睡眠中にパニック発作 を起こした場合	小川朝生、 谷口充孝	内科医のため の不眠診療は はじめの一步	羊土社	東京	2013	172-174
中嶋真一郎、 谷向 仁	サイコオンコロジー	後明郁男、 真野徹	1ランクアッ プをめざす！ がん疼痛治療	南山堂	東京	2013	232-263
中嶋真一郎、 谷向 仁	不安障害	日本緩和医 療薬学会	緩和医療薬学	南江堂	東京	2013	84-85
谷向 仁	睡眠障害	日本緩和医 療薬学会	緩和医療薬学	南江堂	東京	2013	85-86
谷向 仁	認知症 (BPSD) の患者	小川朝生・ 谷口充孝	内科医のため の不眠診療 はじめの一步 誰も教えてく れなかった対 応と処方のコ ツ	羊土社	東京	2013	99-101
谷向 仁	精神疾患 (不安・抑う つ) の患者	小川朝生・ 谷口充孝	内科医のため の不眠診療 はじめの一步 誰も教えてく れなかった対 応と処方のコ ツ	羊土社	東京	2013	102-105
谷向 仁	幻覚や妄想をもつ患者	小川朝生・ 谷口充孝	内科医のため の不眠診療 はじめの一步 誰も教えてく れなかった対 応と処方のコ ツ	羊土社	東京	2013	109-110
谷向 仁	急性のストレスに伴う 不眠の患者	小川朝生・ 谷口充孝	内科医のため の不眠診療 はじめの一步 誰も教えてく れなかった対 応と処方のコ ツ	羊土社	東京	2013	111-113
木澤義之、 森田達也、 新城拓也、 梅田恵、久 原幸	3ステップ実践緩和ケ ア	木澤義之、 森田達也、 新城拓也、 梅田恵、久 原幸	3ステップ実 践緩和ケア	青海社	東京	2013	156-7

雑誌 (外国語)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kondo K, <u>Ogawa A</u> , et al	Characteristics associated with empathic behavior in Japanese oncologists.	Patient Educ Couns	93(2)	350-3	2013
<u>Akechi T</u> , <u>Kizawa Y</u> , et	Assessing medical decision making	Palliat Support	21	1-5	2013



al	capacity among cancer patients: Preliminary clinical experience of using a competency assessment instrument.	Care			
Asai M, <u>Shimizu K</u> , <u>Ogawa A</u> , <u>Akechi T</u> , et al	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients.	Psychooncology	22 (5)	995-1001	2013
Fielding R, <u>Akechi T</u> , et al.	Attributing Variance in Supportive Care Needs during Cancer: Culture-Service, and Individual Differences, before Clinical Factors.	PLOS ONE	8 (5)	e65099	2013
Furukawa TA, <u>Akechi T</u> , et al	Cognitive-behavioral therapy modifies the naturalistic course of social anxiety disorder: Findings from an ABA design study in routine clinical practices.	Psychiatry Clin Neurosci	67 (3)	139-47	2013
Inagaki M, <u>Akechi T</u> , et al.	Associations of interleukin-6 with vegetative but not affective depressive symptoms in terminally ill cancer patients.	Support Care Cancer	21 (8)	2097-106	2013
Kawaguchi A, <u>Akechi T</u> , et al.	Group cognitive behavioral therapy for patients with generalized social anxiety disorder in Japan: outcomes at 1-year follow up and outcome predictors.	Neuropsychiatr Dis Treat	9	267-75	2013
Nakaguchi T, <u>Akechi T</u> , et al.	Oncology nurses' recognition of supportive care needs and symptoms of their patients undergoing chemotherapy.	Jpn J Clin Oncol	43 (4)	369-76	2013
Nakano Y, <u>Akechi T</u> , et al.	Cognitive behavior therapy for psychological distress in patients with recurrent miscarriage.	Psychol Res Behav Manag	6	37-43	2013
<u>Tanimukai H</u> , et al.	An Observational Study of Insomnia and Nightmare Treated With Trazodone in Patients With Advanced Cancer.	Am J Hosp Palliat Care	30(4)	359-362	2013
<u>Tanimukai H</u> , et al.	Paclitaxel induces neurotoxicity through endoplasmic reticulum stress	Biochem Biophys Res Commun	437(1)	151-155	2013
Okamoto Y, <u>Tanimukai H</u> , et al.	Can Gradual Dose Titration of Ketamine for Management of Neuropathic Pain Prevent Psychotomimetic Effects in Patients With Advanced Cancer?	Am J Hosp Palliat Care	30(5)	450-454	2013
Sakagami Y, <u>Tanimukai H</u> , et al	Involvement of endoplasmic reticulum stress in tauopathy.	Biochem Biophys Res Commun	430(2)	500-504	2013
Ohi K, <u>Tanimukai H</u> , et al	The AKT1 gene is associated with attention and brain morphology in schizophrenia.	World J Biol Psychiatry	14(2)	100-113	2013

<u>Mariko Kaneko</u>	Nursing Roles and Issues in Psycho-oncology :An investigation using supportive interview and cognitive behavioral therapy.	Journal of clinical Trials,	doi.org/10.4172/2167-0870, S1-002		2013
<u>Mariko Kaneko</u> , et al	Current Status and Issues in Nurses' Roles in Counseling Cancer Patient-Perception of Certified Nurse Specialists in Cancer Nursing.	Journal of Tokyo Women's Medical University	83(2)	79-85	2013.
<u>Mariko Kaneko</u> , et al	Requirements with regard to nursing consultation by mental health consultation liaison nurses and suggestions for their intervention.	Journal of Nursing & Care	doi:10,4172/2167-1168		2013.
<u>Hirai K</u> , et al.	Structural equation modeling for implementation intentions, cancer worry, and stages of mammography adoption	Psychooncology	22	2339-46	2013
Asai M, <u>Shimizu K</u> , et al	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients. 2013	Psycho oncology.	22(5)	995-1001	2013
<u>Shimizu K</u>	Effects of Integrated Psychosocial Care for Distress in Cancer Patients	Jpn J Clin Oncol.	43(5)	451-457	2013
Hamano J, <u>Kizawa Y</u> , et al	Usefulness of Palliative Prognostic Index for patient with advanced cancer in home care setting.	Am J Hosp Palliat Care	30(3)	264-7	2013
<u>Kizawa Y</u> , et al	Specialized palliative care services in Japan: a nationwide survey of resources and utilization by patients with cancer.	Am J Hosp Palliat Care.	30(6)	552-5	2013
Yamamoto R, <u>Kizawa Y</u> , et al	The palliative care knowledge questionnaire for PEACE: reliability and validity of an instrument to measure palliative care knowledge among physicians.	J Palliat Med.	16(11)	1423-8	2013
Morita T, <u>Hirai K</u> , <u>Kizawa Y</u> , et al	Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study.	Lancet Oncol.	14(7)	638-46	2013
Morita T, <u>Kizawa Y</u> .	Palliative care in Japan: a review focusing on care delivery system.	Curr Opin Support Palliat Care	7(2)	207-15	2013
Iwamitsu Y, <u>Kizawa Y</u> , et al	Troubles and hardships faced by psychologists in cancer care.	Jpn J Clin Oncol.	43(3)	286-93	2013
Nakazawa Y, <u>Kizawa Y</u> , et al	One-year Follow-up of an Educational Intervention for Palliative Care Consultation Teams.	Jpn J Clin Oncol.	44(2)	172-9	2014
Nakazawa K, <u>Kizawa Y</u> , et al.	Palliative Care Physicians' Practices and Attitudes Regarding	Am J Hosp Palliat Care	Epub ahead		2013

	Advance Care Planning in Palliative Care Units in Japan: A Nationwide Survey.		of print		
Ise Y, <u>Kizawa Y</u> , et al	The Activity of Palliative Care Team Pharmacists in Designated Cancer Hospitals: A Nationwide Survey in Japan.	J Pain Symptom Manage. 2013.	Epub ahead of print		2013
Maeda I, <u>Kizawa Y</u> , et al	Progressive Development and Enhancement of Palliative Care Services in Japan: Nationwide Surveys of Designated Cancer Care Hospitals for Three Consecutive Years.	J Pain Symptom Manage.	Epub ahead of print		2014
Hamano J, <u>Kizawa Y</u> , et al	Prospective Clarification of the Utility of the Palliative Prognostic Index for Patients With Advanced Cancer in the Home Care Setting.	Am J Hosp Palliat Care.	Epub ahead of print		2013

雑誌（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>小川朝生</u>	がん領域における精神疾患と緩和ケアチームの役割	PSYCHIATRIST	18	54-61	2013
<u>小川朝生</u>	一般病棟における精神的ケアの現状	看護技術	59(5)	422-6	2013
<u>小川朝生</u>	せん妄の予防-BPSDに対する薬物療法と非薬物療法-	緩和ケア	23(3)	196-9	2013
<u>小川朝生</u>	高齢がん患者のこころのケア	精神科	23(3)	283-7	2013
<u>小川朝生</u>	がん患者の終末期のせん妄	精神科治療学	28(9)	1157-62	2013
<u>小川朝生</u>	がん領域における精神心理的ケアの連携	日本社会精神医学会雑誌	22(2)	123-30	2013
<u>伊藤嘉規, 明智龍男, 他</u>	小児がん患者とその家族のこころのケア.	精神科	23	288-292	2013
<u>明智龍男</u>	がんとこころのケア-サイコオンコロジー.	精神科	23	271-275	2013
<u>明智龍男</u>	せん妄の向精神薬による対症療法と処方計画.	精神科治療学	28	1041-1047	2013
<u>明智龍男</u>	緩和医療とせん妄.	臨床精神医学	42	307-312	2013
<u>明智龍男</u>	術後せん妄.	消化器外科	36	1643-1646	2013
<u>明智龍男</u>	抑うつとがん.	レジデントノート	15	2440-2443	2013

明智龍男, 森田達也	臨床で役立つサイコオンコロジーの最新エビデンス-特集にあたって.	緩和ケア	23	191	2013
明智龍男	がん患者の自殺に関する最新データ.	緩和ケア	23	195	2013
明智龍男	希死念慮を有する患者のアセスメントとケア.	緩和ケア	23	200	2013
井上真一郎、他	せん妄の要因と予防	臨床精神医学	42(3)	289-297	2013
井上真一郎	認知症・せん妄・うつ病の違いを知ろう 病態の違い	看護技術	59(5)	19-28	2013
井上真一郎、他	がん診断早期から行うべき緩和薬物療法の実践-精神的ストレスの観点から-	Mebio	30(7)	23-29	2013
井上真一郎、他	せん妄を見逃さないための注意点	精神科治療学	28(8)	1011-1017	2013
井上真一郎	誤解から学ぼううつ病	岡山県警察機関誌「後楽」	68(9)	43-45	2013
中嶋真一郎、谷向 仁、他	進行がん患者のうつ病に対してエスタロプラムが有効であった2症例	Palliative Care Research	8(2)	548-553	2013
谷向 仁、他	悲嘆を経験する遺族の睡眠障害の事態調査	遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究2 (J-HOPE2)		32-36	2013
谷向 仁	認知症のマネジメント. -BPSDに対する薬物療法と非薬物療法-	緩和ケア	23	201-204	2013
谷向 仁	治療薬の違い	看護技術	59(5)	54-60	2013
谷向 仁	がん患者にみられる不眠	月刊薬事	55(12)	31-35	2013
原 伸輔、谷向 仁、他	がん疼痛治療におけるメサドン導入に際しての地域がん診療連携拠点病院の取り組み	緩和ケア	23(6)	496-471	2013
金子真理子	チーム医療におけるストレスマネジメントケアシステムの構築と評価	科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書		1-6	2013
清水 研	ナショナルセンターとしてのあり方	総合病院精神医学	25(2)	151-155	2013

